



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」

Ver.2-014 号

**同志社大学と「学習指導要領」**



**同志社人の必読書**ともいうべき『いま大学で勉強すること』(副題は「良く生きる」ための学びとは)が岩波書店から出版されている。

松尾敬学長と佐藤優氏の対談形式で分かりやすい。しかし、重厚な内容を理解するには、情報がもう少し欲しいところである。

書籍ではページ数が限られており、対談という形式では、詳細な説明は省かざるを得ない。

そこで「同志社ファン・レポート」としては、**同志社人**として理解をより深めるために主要なキーワードについて整理された箇条書きでの情報を提供しようと試みた。

しかし、そのため全体像が見えなくなることもありますので、原典もご確認いただきたい。

まずは、2020年に改訂される「学習指導要領」についてです。

これを最初に選んだ理由は、第一章で採り上げられているように、本書のベースである。

#### **<今号のポイント>**

##### 1. 「2020年学習指導要領改訂」 その大改訂の内容を知ること

本書の3ページで佐藤優氏が、従来の改訂は「マイナーチェンジ」であって、「根本的な構造転換」ではなかった。しかし、2020年は「プロペラ機からジェット機への転換」のような「大改革」であると言われている。

##### 2. 文科省が大改訂をするとき、どのような将来像を想定したのだろうか。

3. 「2020年学習指導要領改訂」が同志社大学とどう関係があるのか？

この関係まで理解しないと「学習指導要領」の単なるお勉強で終わる。同志社人としては、ぜひ、この答を探り当てて戴きたい。

## <2020年学習指導要領について>

参考 Web: 文科省: 新学習指導要領(本文、解説、資料等)

・[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1383986.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm)

### 1. 学習指導要領とは

小中高校などで教える内容や目標を示した国の基準で、約10年に1度を目安に見直している。1998年の改訂では、学習内容を3割削減した「ゆとり教育」路線を敷き、2008年に改訂、修正。2020年の改訂は、小学校は2020年度、中学校は2021年度、高校は2022年度からと順次実施される予定である。

2. 文部科学省は、新しい教育目標である「学力の3要素」をつぎのように定めている。

- 1). 十分な知識・技能
- 2). 答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現力
- 3). 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

3. 2020年学習指導要領の内容には

それは、何を教えるか(3-b)とそれをどう教えるか(3-a)の2つに分かれる。

### 3-a. 教え方・<どう教えるか>の変化

- ・「何を学ぶか」より、「何ができるようになるか」「どのように(教えるか)学ぶか」に力点を置く。
- ・従来の教師による知識中心の詰め込みから大転換する。
- ・それは、児童生徒同士の学び合い、教え合いを授業で増やそうとする「アクティブ・ラーニング」(主体的・対話的で深い学び)が導入される。

\* アクティブ・ラーニング(active learning)とは

教師が一方向的に講義をするのではなく、学生自らによる能動的学習を目指す授業。体験学習・調査学習・グループ討論・ディベートなどを指す。<デジタル大辞泉>

・同志社小学校には、「道草教育」というものがある。それは「何を学んだか」だけでなく、「どのように学んだか」を大切にし、さらに「学ぶことは楽しい」と感じるような授業を展開している。

(『同志社時報』146号p. 33)

### 3-b. 教科内容・〈何を教えるか〉の主な変化

- ・小学校では英語の「聞く、話す」を3、4年生から学習し、5、6年生の英語授業には「読む、書く」も加わり、正式教科になる。  
加えて、新たにプログラミング教育も導入される。
- ・高校では、改訂が多く、27科目が新設・改定される。
  - 1). 地理歴史・公民分野の内容が特に大きく変わる。
  - 2). 新たな「公共」は必修科目に。18歳選挙権の導入で主権者としての教育を行う。
  - 3). 生き抜く力や地域の課題解決力を身に付けるため、模擬選挙、模擬裁判なども行う。
  - 4). インターネットで氾濫する情報の価値を正確に読み取り活用するメディア・リテラシーの教育も行う。
  - 5). 国際協力や防災を扱う「地理総合」が新設される。
  - 6). 日本と世界の近現代を学ぶ「歴史総合」も新設され、必修科目になり、世界史は必修でなくなる。

### 4. 文科省は、指導要綱の改訂に当たり、将来をどのように見据えていたのか？

これからの変化の激しい時代を生き、社会の中で活躍できる資質・能力とは何か、それをどのように育成するのかを明らかにしたのが2020年の教育改革である。その教育改革を考えるに当たって、参考にしたのが次の情報である。文科省は子供たちが**将来就くことになる職業を見据えて、逆算している。**

- (1). 子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就く。  
キャシー・デビッドソン氏(ニューヨーク市立大学大学院センター教授)の予測
- (2). 今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。  
マイケル・オズボーン氏(オックスフォード大学准教授)の予測
- (3). 2045年には人工知能が人類を越える「シンギュラリティ\*」に到達するという予測

文科省は、どのキャリアを選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものであるという認識に立った検討が必要である、としている。

#### \*「シンギュラリティ」:

人工知能(AI)が人類の知能を超える転換点(技術的特異点)のこと。または、それがもたらす世界の変化のことをいう。

米国の未来学者レイ・カーツワイルが、2005年に出した“The Singularity Is Near”(邦題『ポスト・ヒューマン誕生』)でその概念を提唱し、徐々に知られるようになった。カーツワイ

ルは本書で、2045年にシンギュラリティが到来する、と预言している。

## 「高大接続改革」について

標記については、本書の5ページに書かれている。また、6ページには「高大接続」と表記しているのが「高大接続改革」のことである。

・**高大接続改革**とは、「高校教育」「大学教育」そしてそれをつなぐ「大学入学者選抜」の3つを一体的に改革を行おうとするもの。このことについては、6年前の2012年より文部科学省の諮問機関で議論が進められてきている。

・その狙いは「2020年学習指導要領」で高校教育を改革しても、大学入試が旧態依然としたままでは、従来の座学中心、知識・技能の習得中心の学習から脱却できない。また、大学教育も変わらなければ、トータルでの改革にならないからである。

### 1. 大学教育の改革

大学では、社会に出ていくのに十分な「学力の三要素」(前述p. 2)を持つ学生を卒業までに育てる必要がある。そのために「高大接続改革」に伴い、全ての大学で「3つのポリシー」の見直しが進められ、その内容の公表が平成29年4月から各大学に義務付けられた。

3つのポリシーとは、

- ・「卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)」
- ・「教育課程実施・編成の方針(カリキュラムポリシー)」
- ・「入学者受け入れの方針(アドミッションポリシー)」

のことです。

同志社大学では次の所で3つのポリシーを明らかにしています。なお、学部によっては、学部としてのポリシーを独自で決めているところもある。

[https://www.doshisha.ac.jp/admissions\\_undergrad/new/admission\\_policy/admission\\_policy.html](https://www.doshisha.ac.jp/admissions_undergrad/new/admission_policy/admission_policy.html)

### 2. 大学入学者選抜改革

いわゆる大学入試のこと。これで学習指導要領の抜本的な見直しと学習・指導方法の改善(いわゆるアクティブ・ラーニングの視点による学びの改善)、の結果を計るものでなければならない。

**大学入学者選抜改革についての方針が下記のように決定されている。**

1. これまで以上に多面的・総合的に人物を評価する入試への転換。
2. 現在の大学入試センター試験を廃止。
3. 思考力・判断力・表現力を一層重視した「大学入学共通テスト」を2020年度（2021年1月実施）より導入する。
4. 大学入学共通テストでは、国語と数学に記述式問題を導入する。
5. 英語については4技能を適切に評価するため民間の資格・検定試験を活用する。

一般的、具体的な最新の動向は、朝日新聞が「変わる入試2020」を連載しているので、参考にしてください。

なお、同志社大学の入試は、以前から「非常に手間暇がかかる」記述式を数学についても「ほぼ記述式」を続けている。〈p. 16〉

**3. 同志社大学はどう変わっていくのか。**

同志社大学は、既述の「3つのポリシー」をベースに各学部が具体化していくのであろう。ここでは、各学部に通することのみをご紹介します。それは「ラーニング・コモンズ」の設置である。これで主体的に考える力を備えた学生を育てる「場」を設けたことになる。

「ラーニング・コモンズ」とは

「教える」という教員の側からの一方通行的な教育から、学生が主体的に「学ぶ」ことを育てていく双方向的な教育を目指して、同志社の新しい教育が「ラーニング・コモンズ」から生まれている。

今出川キャンパスでは、2013年4月から良心館の2、3階に総面積 2550 m<sup>2</sup>の巨大な施設がある。それに加えて、今年4月、京田辺キャンパスのラーネッド記念図書館1階にも「ラーニング・コモンズ」が開設された。

グループワークやプレゼンテーションなど、多種多様な学びの交流が展開できる空間を提供している。また、パソコンやプロジェクター、電子黒板など多様な最新情報機器や、人的サポートとしての学習相談やワークショップなどの学習プログラムもあり、学生の学びへの意欲を支援している。間仕切りのないオープンな空間の中、さまざまなヒト・モノ・コト・情報と出会い、それらを仲間とともに議論し展開していくことで、新しい学びの可能性を生み出していくことを目指している。

**同志社大学**が目ざすものは以上のことだけではない。次号以降の「リベラルアーツ」「総合知」「良心」で更に深掘りしたいと考えています。ご指導の程、よろしくお願いします。■